南部地域 学校教育環境アンケート結果概要

アンケート結果報告会 配布資料　令和 8 年 10 月 1 日

この資料は、南部地域の学校や教育環境について寄せられた回答の全体像を共有し、今後の小千谷市の学校の再編計画へ向けた南部地域の基礎資料とするものです。アンケートは特定の再編案への賛成・反対を直接尋ねたものではありません。

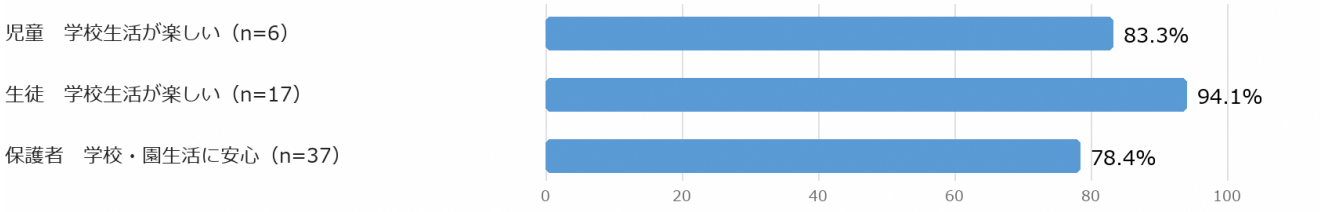
児童	生徒	保護者	調査方法
6 件 **南小 4-6 年**	**17 件** **南中 1-3 年**	**37 件** **未就学児保護者を含む**	令和 8 年 7 月 24 日-31 日 無記名 Google フォーム

※対象となる児童生徒数・配布世帯数が提供されていないため、回答率は算出していません。

1　結果の全体像

現在の学校・園生活への肯定的回答は、児童 83.3%、生徒 94.1%、保護者 78.4%で、いずれも高い水準でした。一方、将来の児童生徒数の減少に伴い、人間関係の固定化、学習や活動の選択肢の縮小、通学負担を心配する声も確認されました。現状を否定するのではなく、現在の良さを残しながら将来に備えることが中心的な課題です。

現在の学校・園生活への肯定的回答



2　回答者別に見えたこと

対象	現在の評価	将来への期待と懸念
児童	学校生活が楽しい 83.3%。現在の人数を受け入れる回答が 66.7%。	新しい友達への期待 66.7%、友達関係の変化への不安 50.0%。現在の関係を保ちながら交流を広げる移行が必要です。
生徒	学校生活が楽しい 94.1%。現在の人数を受け入れる回答が 64.7%。	多様な人と学ぶこと、選択肢の増加を各 52.9%が期待。活動の種類を増やしたい回答も 47.1%ありました。
保護者	個別に目が届く 62.2%、落ち着いて学べる 48.6%を評価。	多様な交流を 62.2%が希望し、人間関係の固定化を 59.5%が懸念。少人数の良さと交流の広がりの両立を求めています。

3　結果を通して見える中心的な論点

保護者の回答では、「個別に目が届く」と「多様な交流」がともに 62.2%でした。また、少人数で安心できる関係を評価した 15 人のうち 8 人は、多様な同世代との交流も求めています。求められているのは、学校規模を単純に大きくするか小さく保つかという二者択一ではなく、個別支援と安心感を保ちながら、交流・学習・活動の幅を広げる具体策です。

自由記述で評価された点

友達との活動や異学年交流、少人数による手厚さ、自然・地域に囲まれた環境、学校が地域の拠点となっていること。

自由記述で示された課題

人間関係の固定化や逃げ場の少なさ、部活動・行事の制約、積雪・猛暑・熊を含む通学、子どもへの説明と意見反映。

4　地域が求める 4 つの基本条件

アンケート全体を通して、今後の案を比較する際に欠かせない条件は、次の 4 点に整理できます。いずれか一つではなく、同時に実現できるかを確認することが重要です。

01　個別に目が届く

一人ひとりに応じた支援、基礎学力の確保、相談しやすい体制を将来も維持する。

02　安心して学べる

落ち着いた学習環境と人間関係を守り、いじめ・不登校や環境変化への支援を具体化する。

03　多様な人と関われる

新しい友達や考え方に触れ、話合い、行事、部活動などの選択肢を広げる。

04　安全に通える

距離だけでなく、季節、朝夕の時刻、活動後の便、家庭負担まで含めて通学を設計する。

5　通学は日々の生活条件で判断する

通学では、積雪・凍結、猛暑、熊、急坂、距離に加え、徒歩・待ち時間・乗車・乗換えを含む総所要時間、朝の出発時刻、帰宅時刻、部活動後の便、家庭送迎が具体的な心配として挙げられました。教育委員会が示す「おおむね 1 時間以内」は上限の考え方であり、その時間への地域の同意を意味するものではなく、再編がある場合の統合校や地区ごとに具体的に知る必要があります。

地域との関係

地域の人に見守られて育つこと 64.9%、地域行事・地域学習 48.6%、学校の場所にかかわらず地域との関係を続ける工夫 45.9%が重視されました。

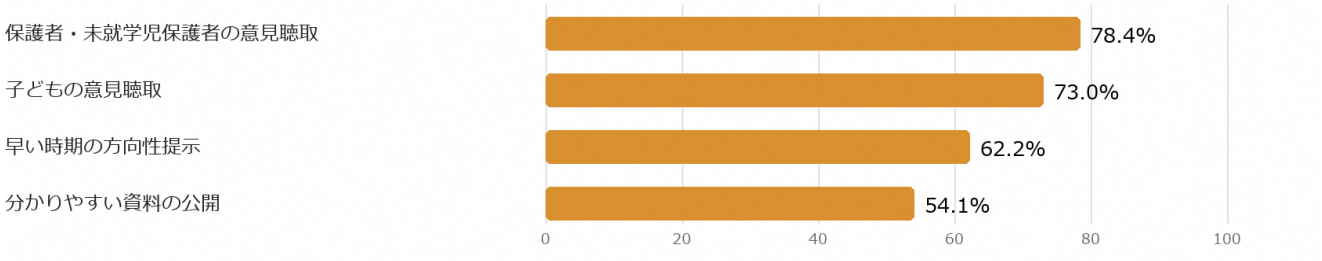
放課後・家庭生活

学童保育、部活動後の移動、地域活動、制服・体操着等の移行費用、学校施設の地域利用も、学校配置と切り離さずに検討する必要があります。

6　結論を急ぐことより比較できる情報を

保護者は、早い時期に方向性を示すことと同時に、子ども・保護者の意見を丁寧に聞き、分かりやすい資料を公開することを求めています。「早く示すこと」と「丁寧に検討すること」は対立するものではなく、複数案と支援策を早期に示した上で、十分な意見交換を行うことが必要です。

保護者が求める検討の進め方



7　今後具体的に示してほしい情報

① 複数案の比較

南小・南中を分け、維持・交流拡大・再編など様々な学校形態を同じ指標で比較できるようにすること。

② 教育と活動

教員配置、個別支援、相談体制、部活動・行事が各案でどう変わるか示す。また、何ができるようになり、何ができなくなるのか。

③ 通学と家庭負担

実測ルート、冬期、活動後便、学童、費用、欠便時対応を具体化する。部活動の地域展開も含め、具体的な活動の変化について。

④ 移行と地域

事前交流、不登校支援、地域学習、見守り、施設利用の継続策を示す。懸念される不登校の実態とその対策へ変化があるのか。